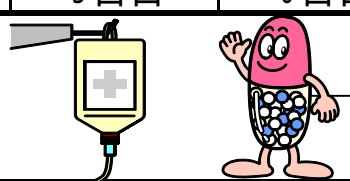

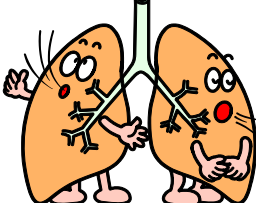
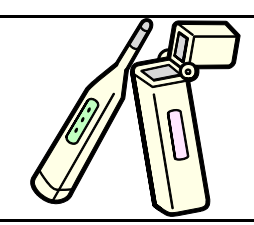

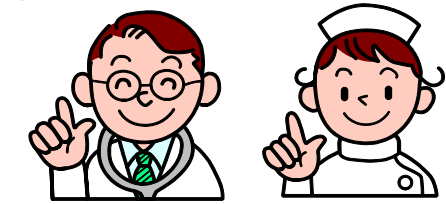



肺炎で入院される方への入院診療看護計画書

氏名 _____ 様 使用許可医師 _____ 主治医 _____ 担当看護師 _____



肺炎とは...肺の中に菌が巣くっている状態(細菌感染)をいいます。
 ある程度までは自分の抵抗力で治りますが、咳・痰・発熱などの症状や、検査データの状況次第で入院治療が必要です。
 あなたの現在の状況は...CRP _____、白血球 _____ で _____ 症です。

	入院日(/)	2日目	3日目	4日目	5日目	6日目	7日目	8日目	9日目	10日目
点滴	・肺の中の細菌を退治するために、朝・夕1日2回抗生物質の点滴を行います。 ・点滴と併用して内服薬を使用する事もあります。 									
内服	・発熱が改善され、採血の結果(白血球・CRPの値)が改善すれば、点滴から内服薬へ変更になります。 									
検査	治療前 ・採血 ・喀痰(専用容器にとってください) ・胸部レントゲン (場合により胸部CT・心電図をおこなうことがあります)		(3~4日目) ・採血 ・胸部レントゲン					(7~8日目) ・採血 ・胸部レントゲン		
食事	制限はありません。 ・食欲のない時は、持ち込みのものなど食べられる物をとってかまいません。 ・食事はいつでも変更できますので、希望があれば看護師に声を掛けて下さい。 ・発熱している時は、なるべく水分を多め(1日1~1.5リットル以上)にとるようにしてください。									
安静度	制限はありません。発熱がある時は、安静にしてください。									
処置	・発熱・体が熱い感じがある時は、氷枕やアイスノンを用意しますので、希望されるかたは申し出てください。 ・体温38.0 以上あり苦痛のある時は、解熱剤(坐薬)を使用しますので、申し出てください。また、血液培養の採血をします。 ・痰が出しにくい時は、吸入をお勧めします。 ・体温の下降に伴い発汗した場合は、清拭を行います。お手伝いしますので看護師に声を掛けて下さい。									
入浴	体温37.0 以下であれば入浴できます。 シャンプーだけでも可能です。 									
説明	・病棟を説明、案内します。 ・主治医より病状・治療方針について患者様と家族のかたに説明があります。 ・入院後、検査のある時は前日にお知らせします。 ・入院前の生活や病状についてお伺いします。						(退院の目安・退院後の生活について) ・発熱などの症状が無くなり、食欲があれば退院可能です。 ・早期退院の場合は、内服治療により外来受診で経過をみます。 ・退院が決まったら、次回外来予約票をお渡しします。 ・咳や痰は2ヶ月位で、徐々に改善しますが、 症状 がひどくなるような時は外来受診してください。 			

以上につき、主治医から充分説明を受け、同意いたします。

患者氏名: _____

家族等氏名: _____ (患者との続柄: _____)

済生会新潟第二病院 呼吸器科